

知的障がいの子 学びの場広かれ

半田 日福大・伊藤教授が講演

特別支援学校を卒業した知的障がいのある子の学びの在り方を考える講演会が23日、半田市東洋町のアイプラザ半田であった。日本福祉大の伊藤修毅教授が、進路の選択肢が少ないとされる現状について問題提起した。

元養護学校教諭の伊藤教授は、自身の経験を交えて支援学校高等部は就労を前提とした進路指導に傾いていると指摘。進学率は一般の高校と比べて著しく低いとし「卒業してからすぐに大人へと変わるわけでは

なく、一定のモラトリアムの期間は必要だが、(現状は)就職へと駆り立てられている」と述べた。納税者を増やそうとする国の施策も、指導の背景にあると分析した。

一般の義務教育に後れを取りながらも、教育を受ける権利を獲得してきた障がい者運動の歴史にも触れ、「知的障がいのある子は、高等部の次の教育について保障されていない状態がいまだ続いている」と指摘。その上で、数は少ないながらも、18歳以降の学びの場

として「専攻科」を設ける知的障がいの支援学校があることを紹介し「愛知でも、学びの場が広がるという」と話した。

講演会は、障がいのある

子を育てる市内の保護者らでつくる「愛知に学びの場を拡げる会」が主催した。140人余りが耳を傾けた。

(山岸弓華)



障がいのある子の学ぶ権利について講演する伊藤教授＝半田市東洋町のアイプラザ半田で